(4)

特別
へ13
3957
4

其磧諸國物語

目録　　四之巻

第一　男女とは蓋して毋い白歯の娘

越後國七尾家の侍長倉の横恋慕

川狩の小舟夢酔でもゆめ乃忘れ花者

乙別る行嫁人の仕みくい娘乃面紀

40-E296

第二　尋くれば人はいと高の小なる源〜男
きの琴ぬ弟ぬ月を立て金銭を拾ふ姫男の
男り気で一盃吟ず墓拝かぐんの足分
屋敷を強じて尼が仲人い猫乃を称

第三　歌の浦家はたみ〜友古い吏の自筆
一達にこひこそ短冊ハ浦梅乃墓
昌寿を不義の足切く拾ふ足分の縁
我身の非義を顧る歌が孔孫の義記

真蹟諸国物語巻之四

一　男ありては美にも無い白歯の姫

冬枯のムロ乃樹よ。雪のわりろ浦のうりる氣きいぬるれ梅の
雪うと。人丸もさき髪をるで。古昔ムの雪を詠やりて称美し
たまひ。千代の松人ぬ雪を詠めれを一つわて書新ぢれうい。
大梅の雪れ車ぞ巳越のムロ乃大雪い用とろこ〜ぬ山る限よい
あ〜ぬ。ぐすを毎じくおそろしを梅の下
もう人ぞ。ごはうよはりて。ぬ〜ろ人い鳥をさ後し。時を過と
車〜ぞれと云ぬいはいムぬ〜ぬ。ぬ〜の人乃ぬ〜ぬ耳を
ふ〜ぬ。者紋の薄赤工仕人ぬをなくさむる云味線のあるる。浦梅
もうもさて〜いりぬ〜ぬ。ぬ〜ぬ国の越後の冬もぬゆく去
のぬ〜れ雪も。松をうんぬを日新ふみうさ毎さら。雪かれ紀潟を

石ろふろて細川の事に家細ぢをぞぶ能酒を剃てゆ越ゑ武の猛ゐ者尾
強作の事に姫川巻をろ布しる織ぢ越浦国ゆ名てゆ巻のゐ作兼
事れ日いひ合ゑて富ておけ石川ゆ賭ゑかをつといとらどゆ毎ゆ細と持て
すひぢげ罪もひろひもうの事も志仏ゑくおろぐ打芸国ぢ元巻
べ名て色よ元姫で母の釈ゆ先ゑて中女はたまづゑに茅巻吉事よめぶ
拾ぶで打ゆきる風佐小能ろいあのまゆとぶ細ゑすくひ弱てとたゆれ
て流ゆれいば姫い母ゑ作ゆ呻て差ふ打ゆ情加て雲ゑ元巻紙ゆ寸付て。
茅ゆ知ふずくしひすび打て芸の作乃の裏ゆくゑ越浦国ゆ姫の作ゑ巻に
流ゆりて布に織ゑ元ひろひ今の姫いほて。ぶむ拾作和事ゆ方に毒年山ぶ
ゆ世作に巻てある。第山事をとゆぶ作ゑ方ゑ元いちぶに。
ゆ仕来ゑの事所ゆ乃て元和ぶくゑ元ゑれ元ゑ巻ぶゑ元ゑ巻と
新く姫妻に作交吉ひゆぶゆ元ゑ巻て作和の作武も流て元ゑ巻

元ゑ巻姫べ作ゑ元ゑ巻ゆ作事元ゑ巻ゆ巻ひぶゆ元ゑ巻ひぶゆて元ゑ巻ゆて
ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻
ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻
ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻
ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻ゆ元ゑ巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

でもあるべきかとこたへて、ご人ごとに、母屋はもとのごとくにて、平なるしたしつめ、
ゑびすいの男はもとの体にて、連れてこうとすべあげてしゆるを、
きいぞ、すてこの男のもとの合点なるを、私のよめまでありこと、
ふてこ祝ら出せいと、祝ら嫁とて、鳥のあるを、芋をこの図のごとく肩とわて、芋屋の
ふかまである事いなものとおもひて、ごとくしてあるべき面白のおれ出ぬ、
反ごの月にて、今度芋をを月とと祝とるもの、あの姫ようづこうてそしゆへの世
祝るしべ、ゑびす男としていかのへそろほどあるゆえ、ほうとうの
はけらく始と、芋とや、藤のやうかゆ力ものが、ゆかけて、俗のその所にもひで
く、ゆらはごの矣ゆふ、嫁ごの、ゆまらく行くく、芋ちんと、図
ゆくにて、芋とおとゆ、ゆきてうれば、図九つより、俗とうやゆ、俗と、ゆ、ごの
してある姫ゆ、ゆうく、ゆちとるるゆちとうく、姫ゆうほどゆるふつて、姫ゆ
ごの芋姫とうて、後ゆ、ゆちとゆ、ゆきてゆ、ゆきてゆ、ゆきてゆ、ゆきてゆ、

ゆけ姫とゆ、ゆ芋ゆ、ゆまらごゆ、ゆちとゆ、ゆけて、ゆ、ゆけて、ゆ、ゆ、ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実ら牧にいかはかりもあるべくもしかるべき
いとおぼえしかるを方々過てけるとてもあれば居ながら
出ぬ程なるまへぬ程なるのはなにも始めてきあるべきをもみいおてる
ぬるもはなをいかやられどもてもはいかなるもはいかなる
のはなるとをもらるべきはかりおさしはなをいかなるのはかりかの男
は肘炭はけ尼と合てたくはけ尼はけ尼
はけ尼はのつづとおれはかるかはは始とひとつよめそはは合の歌をもはは始とも。
はけ尼はいかはけ尼はかはけ尼はかはけ尼は

とゝの同名そのゝ事を教ゝに成下りぬ。銘〻は生きの報ひ。和歌ちあはれなる
てを屋敷ひ近日原れ〻は同人をとゝに拾つる所にぱ〻は家中のおち所に是
ゝと妹いつゝ者にて男ひとすると逆刑よりあてい新まの事をゝ新が
よゝ〻。侍事所にゆびとさゝゝ〻ゝ拾いぬ。そゝ拾ゝ〻ゝ男八武士う
四人ゝ百姓ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ進すてゝ家ゝ〻ゝ代の妻女拾ゝてゝ拾の
自報さんとするいゝけゝとゝ人ゝ〻ゝ家中一ゝの時をさんとゝ
和てゝ〻ゝ拾ゝとゝいけて報ゝに拾ゝを家ゝて当ゝ〻ゝ〻ゝ拾女と拾
出ゝいゝ〻ゝ日ゝ〻ゝ〻ゝ〻

いとすぐれたる事共なり。されば、新しき世の人、
なべてかくの如き事を聞いて、思ひ
とをれば、ものの道理をしらぬ人、
物うめいて、和歌をよみて、
行くに、和歌をよみて、
詞をそへて、
その人、
又、
物の道理をあくまでもしらぬ人、
ぐべきこと。
あそびおつれて、
(三)
歌の道、
言葉出て、

神道問答

問て云、
是、
問て云、
人合せ、
物おぼえ、
をぼえて、
まつりごと、
法とあり。

[illegible]ねたゝ人は傷でくるしみけるに成て命惜むにあたらぬ事なれども
[illegible]けてこゝろ強くいきの通るにあらぬ[illegible]
と接抜てかくると二人とおなじ。[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]